

本文

- ① 秋の田のかりほの庵の苫をあらみわが衣手は露にぬれつつ（天智天皇）
- ② 春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山（持統天皇）
- ③ あしびきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む（柿本人麻呂）
- ④ 田子の浦にうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ（山部赤人）
- ⑤ 天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも（安倍仲磨）
- ⑥ このたびは幣も取りあへず手向山紅葉の錦神のまにまに（菅家）
- ⑦ ちはやぶる神代も聞かず竜田川からくれなゐに水くくるとは（在原業平朝臣）
- ⑧ めぐりあひて見しやそれとも分かぬ間に雲隠れにし夜半の月かな（紫式部）
- ⑨ 花の色は移りにけりないたづらにわが身世にふるながめせし間に（小野小町）
- ⑩ 忍ぶれど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで（平兼盛）

設問

1. ①の歌について、次の各問いに答えよ。
 - 「かりほの庵」とはどのような小屋か、簡潔に説明せよ。
 - 「苫をあらみ」を現代語訳せよ。
 - この歌で詠まれている作者の境遇・心情を一言で述べよ。
2. ②の歌の「来にけらし」を、文法に注意して現代語訳せよ。
3. ④の歌の「白妙の」は、ある語にかかる枕詞である。何にかかるか、本文中の語で答えよ。
4. ②の歌の「衣ほすてふ」の「てふ」は、もとはどのような語が変化したものか答えよ。また意味も記せ。
5. ③の歌の「ひとりかも寝む」を現代語訳せよ。
6. ④の歌の末尾「降りつつ」が表す表現上の効果（ニュアンス）を説明せよ。
7. ⑤の歌について、次の各問いに答えよ。
 - 「ふりさけ見れば」を現代語訳せよ。
 - この歌は、作者がどこで（どのような状況で）詠んだものか説明せよ。
8. ⑥の歌の「神のまにまに」を現代語訳せよ。

9. ⑦の歌の「ちはやぶる」は何にかかる枕詞か、本文中の語で答えよ。
10. ⑦の歌の「からくれなるに水くくるとは」が描いている情景を、現代語で説明せよ。
11. ⑧の歌の「雲隠れにし夜半の月」は、何をたとえた表現か。この歌の詞書（再会の場面）を踏まえて答えよ。
12. ⑧の歌の作者「紫式部」の代表的な著作を一つ挙げよ。
13. ⑨の歌の「いたづらに」の意味を答えよ。
14. ⑨の歌の「ながめ」には二つの意味が掛けられている。その二つの意味を答えよ（掛詞）。
15. ⑩の歌の「色に出でにけり」を現代語訳せよ。
16. ②の歌の句切れを答えよ。
17. ③の歌に用いられている、ある語を導き出すための修辞技法の名称を答えよ。また、それによって導かれている語句を抜き出せ。
18. ⑥の歌の「幣（ぬさ）」とは何か、簡潔に説明せよ。
19. ⑥の歌で、紅葉を「錦」にたとえている表現技法の名称を答えよ。
20. ⑨の歌全体で、作者は主に何が衰えてゆくことを嘆いているか。重ねられている二つの対象を答えよ。
21. ⑩の歌で詠まれている作者の心情を、簡潔に説明せよ。
22. ①～⑩の歌のうち、天皇（または天皇位にあった人物）が作者である歌を、番号ですべて選べ。
23. ②・④の歌に共通して用いられている、純白を表す枕詞を、ひらがな五字で答えよ。